

特集

最新トピックス  
デジタルX線透視装置の導入

快適に検査を！生まれ変わった検査室



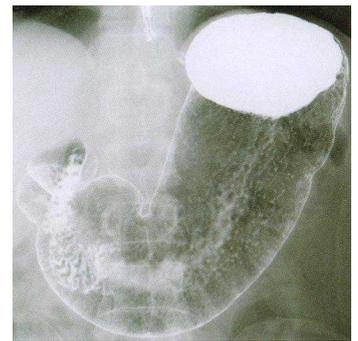
■大視野のデジタル画像  
最大視野が17×17インチ  
(42×42cm)と大きく、正方

当院の放射線検査装置のなかで唯一フィルム撮影を行っていた透視撮影装置がデジタルX線透視装置に更新されました。主に、胃透視、注腸透視、気管支内視鏡、胆管膵管造影に使用されます。検査室内も整備され、患者さんはもちろん、術者に対しても優しい環境となりました。

形であることから腹部の検査（注腸検査）のように広い範囲を見たい場合に威力を発揮します。

■歪みのない高精細画像  
フラットパネル検出器という新しい技術を使用しているため、以前とは異なり画像に歪みが発生しません。1マトリックスサイズ148μmという高精細画像を実現しています。

■寝台が広く撮影可能範囲の拡大  
天板は以前より広く段差もないため、患者さんの体にかかる負担が軽減されました。視野の広さも加わり、装置の移動のみでほぼ全身をカバーできます。患者さんの動きを



最小限におさえられるため、より安全な検査が行えます。

■低位置での昇降  
寝台が床上48cmまで降下し、ベッドや車椅子と高さをあわせることができるため、安全かつ容易に移動が行えます。

■被ばく線量の低減  
大視野・高画質透視が、検査を効率的にサポートし、結果として透視線量の低減や透視時間の削減に繋がります。連続透視からパルス透視へ変わったことで、さらに被ばく線量は低減しました。

■広く明るい検査室  
以前あった機械室が不要になり、検査室内が、開放感のある広々とした部屋となりました。トイレもウォシュレットタイプのものを備え、注腸検査後も衛生的に過ごすことができますようになりました。

検査が快適に行えるようにエアコンを備え、また換気システムを導入することで、飛沫による感染拡大にも配慮された環境となっています。

